宮城民医連
東日本大震災

災害復興ニュース

ニュース　=第93号=
発行日　2012年2月27日
発行　宮城民医連

大切な写真を家族のもとに届けてあげたい

写真洗浄ボランティア

丁寧に写真の泥を落としていきます

いつも行く写真屋さんの入口に、急募！！写真の洗浄ボランティア募集！！のチラシを見つけ、早速出かけてみる事にしました。被災地を取材していて、何度も瓦礫と一緒に放置されたアルバムを見ていて持ち主のもとに届けたいという思いもありました。

2 月 25 日、大雪の中、農業園芸センターにはスタッフ・ボランティア 30 人位が集まっていました。最初は作業の分担。写真の泥落とし、洗浄、アルバムへの整理など作業はいろいろあります。写真は透明な袋に入っていて、見つけられた場所の地図も一緒にありました。

私はネガの洗浄を担当しました。絵筆で泥を落としながら水洗します。膜面（感光面）は海水に浸かり剥がれやすくなっているので、触れない様に細心の注意をはらいます。午後は写真の泥落とし。油絵用のペインテングナイフを使いながら慎重に泥を落としていきます。泥を取り除いて人物が浮かび上がってきたときは感動を覚えました。

ボランティア活動では、人との出会いもあります。この日は地元の他に福岡や横浜からの参加もありました。福岡からの若い男性 4 人は「自分も何か力になりたい」ということで参加。荒浜の近くで被災した伊藤さんは避難所で、一つのおにぎりを家族で分け合って食べたといいます。力仕事はできないけれど、このような作業なら自分にもできそうだと、12 月の開所当時から参加しています。午前、午後とも一緒に作業した仙台白百合女子大学の佐藤さんは管理栄養士を目指しているとの事でした。数日前も南三陸町で瓦礫処理のボランティアに参加してきたばかり、「被災地ではまだまだボランティアを必要としています。」とのこと。自分のおこづかいで参加しているとのことで、交通費が大変そうでした。いろいろ話している中で、「坂総合病院はとてもいい病院だと聞いています」とも。

被災地には多くの人がそれぞれの思いを抱いてボランティア参加しているのがよくわかります。また、若い人が多いのには心強く思いました。震災からもうすぐ 1 年になりますが、私たちにも手伝えることはまだまだあります。（神馬　悟）

洗浄した写真が持ち主に届きますように

女川出身の川添さんは福岡県に嫁いで 50 年になりますが、地元のお手伝いがしたくてと、駆けつけてきた。

「震災遺児修学援助基金」設立

●財団法人高速道路交流推進財団（東京）では、東日本大震災の震災遺児を支援するため、震災遺児修学援助基金を設立した。

給付額は 1 人当たり年間 28 万 2000 円で返済の必要はない。対象は小、中、高、高専、特別支援学校、専修学校、短大、大学に在学する人。 0 歳から大学生までの申請を受け付ける。未就学児は待機児童として登録し、小学校入学時から給付する。給付期間は申込時の学年から大学 4 年まで。　希望者は､所定の申請書などを揃えて郵送で申し込む。

＊問合せ先　　財団法人高速道路交流推進財団企画部
電話（0120）768660　　平日午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分

若林区と宮城野区の写真展示

津波で流され、その後回収された若林区と宮城野区の写真が展示されます。

＊日時:2 月 29 日～3 月 25 日まで
＊場所:仙台駅東口パルシテイ内
中央市民センター